

世界と手を携えて健康増進を目指しましょう！東陽人民病院、日本の消化器科専門家紹介会を開催

2024-9-25 東陽人民病院



このほど、東陽人民病院主催、北京華東国康慈善財団共催による「日本消化器医学専門家学術紹介大会」が当院教育棟で盛況のうちに開催されました。



この会議には、日本の順天堂にある東京江東老人医療センター消化器科部長の浅岡大介教授と、日本の順天堂大学消化器科教授の王晓念博士が招待されました。彼らは日本の消化器病学分野の優れた専門家です。この会議には、同病院の3つのキャンパスから70名以上、一部の機能部門の院長や副院長、消化器科などの診療科の医療スタッフが出席した。

知の衝突、未来を拓く



理事副会長が主催者として最初に歓迎の挨拶をする必要があります。彼はまず、遠くから来てくれた日本の消化器病専門家たちに温かい歓迎と感謝の意を表した。同氏は、中日両国の医療交流は非常に重要であると指摘し、双方の医療の進歩を促進するために毎年学術交流を開催し、将来的には正常化された協力関係が形成されることを期待していると述べた。同時に、当院の若手医師が日本に留学し、視野を広げ、日本の豊富な臨床経験から学ぶことを奨励しています。最後に同氏は、この学術報告会が完全に成功することを祈り、参加した専門家が十分にコミュニケーションを取り、意見をぶつけ合い、共同して消化器病学の新たな章を開くことができることを期待した。



北京華通国康慈善財団理事長の陳蘭氏が熱弁した。同氏は、国内の郡レベルの病院のリーダーとしての東陽人民病院の業績は、指導部のマクロな指導とチームの絶え間ない努力から切り離せないものであると述べた。この財団はまた、より多くの中国の病院の国際化を支援し、人材の育成と科学研究の発展を促進していく予定です。将来的には、東陽人民病院が日本の医療機関とより長期的な交流メカニズムを構築し、共同で医療の進歩を促進することが期待されます。



党委員会副書記兼国家主席の陳祥氏がこの会議を主宰した。



浅岡大介教授は、「人生百年—超高齢社会における医学の知恵を探る—」と題して、高齢化社会に対処する日本の医療戦略と革新的実践を専門的な見地から詳しく分析し、深い感動を与えた。と参加者にインスピレーションを与えます。



王仙念教授は「順天堂病院の分子医学研究における伝統的中医学の再理解」と題し、アレルギー体質クリニックが達成した画期的な研究成果を、アレルギー体質クリニックの統合という観点からわかりやすく解説しました。伝統的な中国医学と西洋医学。同時に、現代薬や免疫療法と組み合わせた伝統的な中国医学の個別の治療計画を使用して、アレルギー体質の患者の症状の頻度と重症度を軽減することに成功したいくつかの成功例も共有されました。これらの症例は、アレルギー体質の診断と治療における伝統的な中国医学と現代技術の組み合わせの大きな可能性と利点を十分に示しています。





当院本部消化器科副院長のルー・シャンイン氏と義烏キャンパス消化器科部長の黄曉東氏が、当院の概要、特徴的な技術、科学的研究成果について包括的かつ深く紹介しました。東陽人民病院消化器科チームの専門的能力と優れた業績を遺憾なく発揮しています。



その後、双方は医療技術、科学研究協力、人材育成などの分野について緊密な意見交換と議論を行い、今後の協力の方向性について暫定合意に達した。双方は、この交流をコミュニケーションと協力をさらに強化する機会として活用すると述べた。





会議後、日本人専門家2名も当院を訪問し、近年の病院の発展、洗練された経営、医療特性技術、人材チームの育成、規律構築などについて包括的に説明を聞くとともに、様々な現場の視察を行いました。病院間のコミュニケーションと理解を強化するために、関連する作業について徹底的な議論を行いました。